

当協会は、昭和 37 年に設立し、群馬県内の保健福祉・医療機関で働くソーシャルワーカーが集まり活動をしております。ソーシャルワーカーとしての資質向上、ネットワーク作り、社会福祉の増進、地位の確立を図るため日々努力しているところです。ソーシャルワーカーとしてお仕事をされている皆さん、当協会で一緒に活動してみませんか？

○当協会の主な活動について

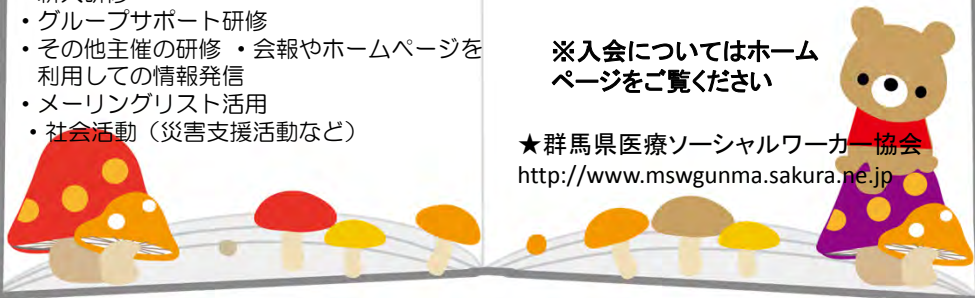
- ・ 4 ブロックに分かれて、研修・事例検討
- ・ 定例会やその他活動等
- ・ 全体研修
- ・ 新人研修
- ・ グループサポート研修
- ・ その他主催の研修 ・ 会報やホームページを利用しての情報発信
- ・ メーリングリスト活用
- ・ 社会活動（災害支援活動など）

○年会費

| | |
|----------|----------|
| 正 会 員 | 5, 000円 |
| 準 会 員 | 5, 000円 |
| 賛助会員（個人） | 5, 000円 |
| 賛助会員（団体） | 30, 000円 |

※入会についてはホームページをご覧ください

★群馬県医療ソーシャルワーカー協会
<http://www.mswgunma.sakura.ne.jp>



群馬県医療ソーシャルワーカー協会

ぬくもり群馬

<INDEX>

- ☆組織率向上を目指して
- ☆ソーシャルワーカーデー2015ぐんま
- ☆新人研修
- ☆フレッシュマンレポート
- ☆平成26年度セミナー
- ☆委員会報告
- ☆入会案内・編集後記



編集後記

『ぬくもり群馬・2015秋号』を最後までお読み頂き、誠にありがとうございます。おかげ様で第11号を発刊することが出来ました。

私たち群馬県医療ソーシャルワーカー協会では、今年度より医療ソーシャルワーカー、社会福祉士、精神保健福祉士を目指す学生も対象とした研修も開催をはじめ、協会として新たな取り組みに調整を始めました。

また、組織図にありますように、各委員会でも医療ソーシャルワーカーの周知、認知を広める活動、組織率の向上にも努める試みが動き出しております。

今後とも、群馬県医療ソーシャルワーカー協会は、会員の資質向上に努め、各種研修や普及啓発に励んで参りたいと思います。次号の『ぬくもり群馬』は、2016年・春の発行予定となっております。ご拝読下さいました、皆さまに喜んで頂けるようなものをお届け出来るよう、広報委員会一同、努めてまいります。

広報委員会

- 小林 一幸：角田病院・東毛
- 小淵 匡：国立病院機構沼田病院・北毛
- 星野 裕一：鶴谷病院・東毛
- 星野 晴彦：美原記念病院・東毛
- 佐瀬 学：居宅介護支援事業所さきりゅう・東毛
- 碓井 祐太郎：前橋赤十字病院・中毛
- 原島 歩志：老年病研究所附属病院・中毛





組織率向上を目指して

会長 中井 正江



日頃より医療ソーシャルワーカー及び当協会に対してご理解・ご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。

医療ソーシャルワーカーの業務の範囲やその方法については、厚生労働省保健局長通知「医療ソーシャルワーカー業務指針」に定められています。「社会福祉の立場から患者のかかえる経済的、心理的、社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る役割」とし、「診療所、介護老人保健施設、精神障害者社会復帰施設、保健所、精神保健福祉センター等様々な保健医療機関に配置されている医療ソーシャルワーカーについて標準的業務を定めた」とあります。

当協会では、昨年に引き続き本年4月に県内の医療ソーシャルワーカー（医療福祉相談）についてアンケート調査を実施しました。本年度は上記に鑑みて、介護老人保健施設にもアンケート調査を実施しました。病院は100%（131施設）、介護老人保健施設は92.7%（77施設）より回答をいただきました。ご回答いただきました皆さまには大変お忙しい中、ご協力いただきこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

その結果、県内の医療福祉相談業務についている人数は、病院では434名（前年非+31人）であり、社会福祉士の当協会への加入は275名（65.6%）、介護老人保健施設では155名、社会福祉士の当協会への加入は10名（6.6%）と判明し、決して高い割合とは言えない現状が明確となりました。また、社会福祉士以外で精神保健福祉士や介護支援専門員、保健師、看護師の方々が医療福祉相談を実施していることが判明しました。そこで当協会としては社会福祉士の方は基よりそれ以外の方々にも加入していただけるように会則を変更しました。（詳細は別添のリーフレットでご確認ください。）

是非、ご加入いただき保健医療分野における社会福祉の増進を目指して医療ソーシャルワーカーとしての知識や技術の向上、そして、県民の健康と福祉の増進に寄与できるよう活動していきましょう。

＜新設委員会＞在宅医療推進委員会

委員長 村井 雅子
(高崎市医療介護連携相談センター)

団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成37年)をめどに、高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められています。地域包括ケアシステムの構築に向けては、医療と介護の連携も重要な柱となっていることから、医療ソーシャルワーカーの役割が問われる部分でもあります。

こうした流れのなかで、医療ソーシャルワーカー協会としても、地域包括ケアシステムへ参画していく必要性を考え、中井会長提唱のもと、今年度より、在宅医療推進委員会が立ち上がりました。委員会活動を通じて、「患者さんが望む場所で、望む生活ができる」ために、医療ソーシャルワーカーが担う役割を、再認識できればと考えております。

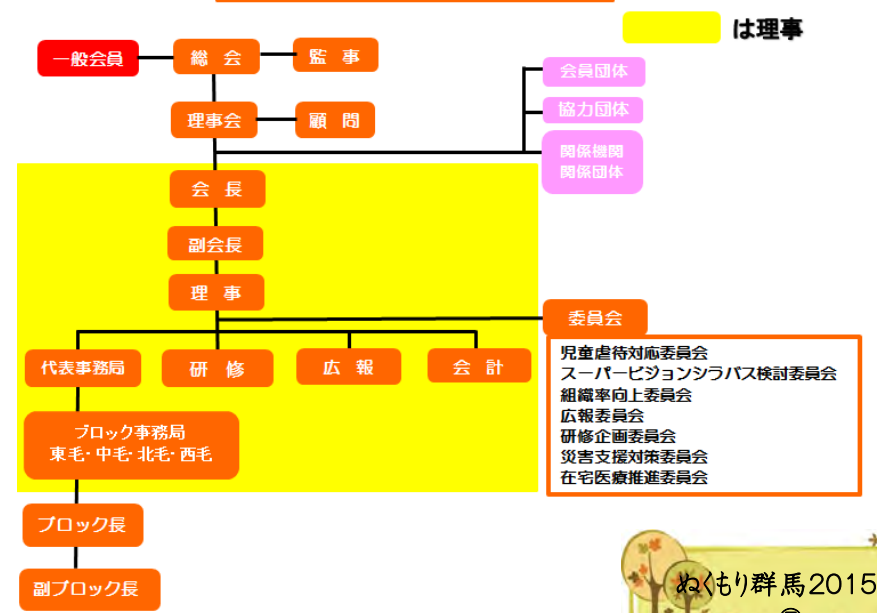
当委員会には、4ブロックから集まった12名の委員と、1名のオブザーバーが参加しております。経験年数の長い方が多く、一番若輩者の私が委員長となりましたが、先輩方にアドバイスを頂きながら、より意味のある委員会活動ができればと考えております。

具体的な活動内容ですが、今年度はまず、患者さんの在宅復帰を考えるうえで、より密な連携が必要となる介護支援専門員の方との研修会を企画しました。群馬県介護支援専門員協会にも、ご協力を頂いております。

この研修会は、地域ごとに違う課題があることや、業務を通して、普段実際に顔を合わせる関係で、話し合えることを考慮し、東毛、北毛、中毛、西毛のブロックごとに開催することとなりました。11月～1月の間で実施予定です。この研修を通じて、お互いの業務の実際を理解し合い、連携上の課題について共有し、解決策について話し合っていければと考えております。

また、今年度の研修会は最初の一步ということで、ここから得たことを、次の活動へ結びつけていければと思っております。

組織図





平成26年度 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 セミナー

群馬県在宅医療総合推進事業補助金(群馬県指令医第30168-204号)

◆医療と介護の連携について考える

「群馬県における医療介護施策について」

群馬県健康福祉部医務課 次長 島田 和之 氏

第1部 講演

「医療機関の立場から」

群馬リハビリテーション病院 地域連携室 室長 宇野 浩文 氏

「教育の立場から」

高崎健康福祉大学 保健医療学部看護学科 教授 棚橋さつき氏

「介護事業所の立場から」

株式会社エムダブルエス日高 代表取締役社長 北嶋 史誉 氏

第2部 パネルディスカッション

「なぜ、地域包括ケアなのか」

高崎総合医療センター

主任医療社会事業専門職

公益社団法人 日本医療

社会福祉協会 理事 篠原純史 氏

「地域で支えるということ」

座長:篠原純史 氏

パネリスト:宇野 浩文 氏

棚橋さつき 氏

北嶋 史誉 氏



平成27年3月21日(土・祝)群馬県社会福祉総合センター8階大ホールにて、群馬県内の医療ソーシャルワーカー、看護師、介護支援専門員を対象にセミナーを開催しました。

前年度に引き続き群馬県在宅医療総合推進事業補助金の交付を受け、群馬県内の在宅医療に係る人材育成事業並びに多職種又は医療・福祉の連携を促進する事業でした。

群馬県などの諸団体から後援を頂き、群馬県医療ソーシャルワーカー協会員64名、協会外の医療ソーシャルワーカー・看護師・介護支援専門員・介護職員・薬剤師、理学療法士、医師、学生など59名、合計123名の参加で盛大に無事終了しました。

『社会生活上の困難に直面する患者・家族の支援に関しての理解を深めるとともに、関係機関の連携向上を図り、患者・家族の生活支援に資する。』という目的は、果たされたと思います。当協会内外の皆さま、ご協力ありがとうございました。

研修担当理事 岡田 知一
(グリーンライフ東日本株式会社)

ソーシャルワーカーデー2015inぐんま

ソーシャルワーカーデー2015 in ぐんま(日時:平成27年 7月12日
会場:群馬県社会福祉総合センター)を開催しました。

関係機関並びに関係者の皆様へ、ご理解・ご協力をいただき、御礼申し上げます。祝日の海の日を中心に、全国でソーシャルワーカーデーの行事として、様々な取り組みが展開されています。どの行事もソーシャルワーカーの活動を推進・普及するものとなっています。群馬県では、活動するソーシャルワーカー3団体(群馬県社会福祉士会・群馬県精神保健福祉士会・群馬県医療ソーシャルワーカー協会)が主催団体となり、本年で3回目の開催となりました。本年は、県精神保健福祉士会が幹事団体の役割を担っていただきました。

本年のテーマは、「心のケアが必要な思春期・青年期の若者への支援」～思春期、ソーシャルワーカーはどうかかわる?かかわれる??～と題して、一般県民や特に県内教育関係者などへもお声を掛けさせていただきました当日、約150名の参加者のもと開催されました。



記念講演には西隈亜紀先生(NPO法人東京フレンズ理事長、日本社会事業大学非常勤講師)に來県していただきました。西隈先生は、「援助者が心掛けることとして①自分の幼い頃の記憶をできるだけ思い出せるように努める。②相手にチャンネル(周波数)を合わせる。③福祉だけでなく、さまざまな制度に幅広く精通しておく。④本人の成長・発達に合わせて年単位の長いかかりとなることを覚悟する」と講演いただき、最後は会場の方々と質疑もしていただきました。パネルディスカッションでは、当協会を代表して、前橋赤十字病院の千田裕子会員が、医療ソーシャルワーカーの立場として、身体科医療機関だからこそ「危機介入が出来る強みと各地域の相談機関とより密に連携していくことの大切さ」を発表していただきました。

ソーシャルワーカーの存在とその活動をより多くの地域の方に知っていただき、理解いただけるように、当協会では考えています。よりよい社会づくりのために、来年以降も連携を図り、このソーシャルワーカーデーin群馬を継続していきたいと思っております。

来年は、群馬県社会福祉士会が幹事団体となります。皆様、是非ご参加ください。



副会長 竹内 勇治
(前橋市地域包括支援センター西部)

平成27年度 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 新人研修

平成27年6月27日（土）、7月18日（土）7月19日（日）三日間に分けて新人研修を行いました。今回より講義時間をすべて90分とし、虐待の項目も新設するため、二日間では困難なため三日間となりました。

一日目は「医療ソーシャルワーカーの倫理と価値」前橋赤十字病院 中井正江氏の講義と実践発表とグループワークを企画し、県協会新入会員だけでなく県内社会福祉士養成校への声掛けをし、学生へ対するMSWの勉強会としての機能を併せ持つ研修としました。MSWになりたいという声が多く上がっているという話もあり、たくさんの申込みを頂くことが出来ました。

先輩SWの実践発表のちのグループワークはKJ法で、「こんなMSWは嫌だ!!」というテーマで引き出して、「どんなMSWが理想か」というディスカッションと発表となりました。学生、新人が混ざったグループワークでは活発な意見交換がなされていました。

中井会長の倫理と価値の講義では、自身の価値を見直し、学校では聞けないリアルな実践の現場を垣間見ることが出来たと後のアンケートにも多くの感想がありました。

学生に向けたイベントは都道府県単位での開催の必要性が上がってきたところでの非常にタイムリーな開催ができました。初めての企画となりましたが、無事に終了することが出来、安堵の気持ちと共に継続できるイベントとして、しっかり反省点など見直し、次年度に続けていきたいと思っております。



7月18日、19日の集中講座では7つの講義を行い、倫理綱領、行動指針等ソーシャルワーク実践を構成据える基盤要素、記録やアセスメントの意義、面接の目的・技法や事例検討等の講義を行いました。また、一日目終了後に交流会を行い、今後業務や協会活動を続けていくための仲間とのきっかけ作りも併せて築いていくこととしました。各講義ともにロールプレイやディスカッションが多く組み込まれており、それぞれ前向きにソーシャルワーク実践の基礎について学ぶ機会とすることができました。タイトなスケジュールの中、長時間にわたる講義でしたが、集中して学んでいくことが出来たと思っております。

また、昨年度同様に12月に開催予定の事例検討を含めた全プログラムへの参加者に対し認定医療社会福祉士のポイントが取得できる様、申請を行っております。

各職場のご理解のもと、多くの県協会の先輩方にご協力頂くことに感謝の気持ちを申し上げるとともに、皆さんとつくり愛される研修として開催されるようにこれからも研修委員会では研鑽を続けていきたいと思っております。

【講義内容】

- ・「医療ソーシャルワーカーの倫理と価値」
- ・「面接技法」
- ・「医療ソーシャルワーカーの記録」
- ・「医療ソーシャルワーカーとアセスメント」
- ・「社会保障制度」
- ・「連携組織とチーム医療」
- ・「事例検討」
- ・「医療ソーシャルワーカーと虐待対応」（今年度より新設）



Freshman Report

群馬県医療ソーシャルワーカー 協会に入会して

恵愛堂病院 堀口春花



私は、今年4月に医療ソーシャルワーカーとして入職しました。入職してからの毎日は、自分の知らない新しい発見や出会いの連続でした。そんな中、先輩SWより医療ソーシャルワーカー協会のことを教えて頂きました。私は、県内の他病院のSWと交流を深め、より一層SWという専門職としての知識や技術、自覚の向上を目指したいという思いから、協会に入会致しました。

協会では、新人研修やブロック別の研修、事例検討会、全体研修会等、様々な研修の機会が設けられています。それぞれ充実したプログラムが計画されており、日々のSWとしての自身を振り返る貴重な時間となっていると、私は感じています。私は普段の業務の中で、クライアントに対する自身の関わりをしっかりと振り返ることがなかなかできていません。協会での研修は、SWとして大切な視点は何かを改めて気付かせてくれ、今後の新たな目標設定にも繋がっています。また、他病院のSWと交流を深め、自分とは違う意見や考えを聞くことで、視野を広げる機会にもなっています。

私はまだまだSWとして未熟ですが、患者様とそのご家族の気持ちや個性に向き合い、寄り添い続けていきたいと思っています。今後も、協会の研修で得たものをしっかりと自分の糧にしていくよう、努力していきたいです。